

市民の横顔

強い気持ちで夢につながる

清水エスパルス・ミッドフィールダー

にしむらやすふみ
西村恭史さん



■プロへのあこがれ

Jリーグ清水エスパルスの西村恭史選手は本市出身です。楠小学校・千代田中学校を卒業し、興国高校での活躍が認められ、U-18日本代表候補にも選出。そして平成30年、清水エスパルスに入団しました。

小学生のころから、学校の休み時間や放課後に友達とサッカーをするのが大好きで、暗くなるまでボールを追いかけて遊んでいました。3年生の時には、母親のすすめもあり市内のサッカークラブに参加。練習を重ねるうちに将来はプロのサッカー選手になりたいと思うようになってきました。

■夢を持ち続けて

中学生の時はなかなかレギュラーになれず、目立つ存在ではなかったとのこと。身長が急に伸びて体のバランスを崩し、思うようにプレーが

できず、挫折しそうな時期もありました。それでもプロを目指す強い気持ちを持ち続けた結果、高校で才能を開花させ、その後、清水エスパルスの関係者の目にとまりプロの道へと進みました。

夢をかなえる秘訣を聞くと、「プロになりたいという強い気持ち、誰にも負けない気持ちで練習態度に現れます。全てがプロを意識した質の高い練習をするようになります。」と話してくれました。

■プロの選手として

現在のポジションは攻撃にも守備にも参加する「ボランチ」で、中盤から前線でのシュートやパスはもちろん、自陣ゴール前での守備も。184センチの長身を生かした空中戦に強い大



エスパルス試合でのユニフォーム姿【©S-PULSE】

型ボランチとして期待されています。

普段のチームでの練習は1日2時間程度、残りの時間は自由とのこと。「自由時間をプロ

としてどのように過ごすか、自己管理がとても大切です。自主練習するにしても休息をとるにしても全て自分で決めなければいけません。最初は戸惑いもありましたが、先輩に教えてもらいながら時間の使い方を工夫しています。」と話す眼差しに甘えはありません。

■応援を糧に夢を広げる

「地元の友達から連絡をもらったり、応援に来てくれると力が湧きます」と語る西村さ

んは、19歳でチーム最年少。先輩に積極的に質問し、話しかけるなど、若手として円滑なコミュニケーションを心がけているそうです。

「来シーズンが勝負の年だと感じています。まずは今年5月にポランドで開催されるU-20ワールドカップへ出場することが目標です。その次は東京オリンピックのメンバーとして選出されることを目指します。」と話す姿に、未来を見えた強い気持ちを感じました。プロのサッカー選手としてのキャリアは始まったばかり。多くの人の声援を背にさらに大きな夢を追いかけます。

地元クラブでのOB戦

